

復興への思いを託す

「NPO浅見川ゆめ会議」は、浅見川河口で「浅見川灯火会」を行い、参加者が犠牲者の冥福と復興を願い熱紙風船を夜空に上げました。この企画は、東北運輸局が、大震災で被災した東北の沿岸部を置き灯籠などロウソクの火で照らそうと企画し、各地に協力を呼び掛けました。約50人が参加し、夜空高く舞い上がる熱紙風船に復興への思いを託しました。



▲復興を願い熱紙風船を夜空に上げる参加者

新たな誓いを胸に

大震災犠牲者追悼式は、3月11日、かんの斎苑で行われた。東日本大震災の津波で2人が犠牲となり、1人がいまだ行方不明。式には、遺族や行政、消防団の関係者ら約100人が出席し、犠牲者の安らかな眠りを祈るとともに復興に向けて新たな誓いを立てました。



▲湯本出張所での講演会の様子

放射線による健康への影響を学ぶ

放射線と健康に関する講演会が3月18日、湯本出張所と保健センターで行われました。

約70人が参加しました。講演では、広野町アドバイザーである富士フィルムR1ファーマ株式会社の岡崎富美夫さんがプロジェクターを使って放射線による健康への影響について分かりやすく説明しました。

広野町少年剣道大会開催

広野町剣道スポーツ少年団は、3月18日、平第三中学校武道館で第34回広野町少年剣道大会を開催しました。

剣道スポ少の指導者でもあり、楯葉中学校兼平第三中学校教諭の松田直樹先生のご協力で平三中武道館をお借りすることができ、県内外の避難先から団員のうち25名が集まり、低学年の部、高学年の部、中学生の部に分かれて試合を行いました。



▲広野町少年剣道大会の様子

現在、団員の多くは、避難先近くの剣道団にお世話になる形でそれぞれ剣道を続けており、広野町剣道スポーツ少年団としても昨年5月から月に1度いわき市内に集合し、活動を続け、大会などにも出場しています。

今大会は、たくさんの方の協力と助けがあって開催することができ、震災後も剣道ができることに感謝して試合を行いました。



▲広野町少年剣道大会に参加した皆さん

Interview

広野町の再建に向けて

復興推進顧問としての挑戦

3月1日、町より広野町復興推進顧問として委嘱された芥川氏。町民一人ひとりの生活の復興、ふるさと広野町の復興に向けて復興推進顧問としての想いについて芥川氏に話を聞いた。



略歴
 広野町復興推進顧問 芥川 一則
 1998年 福島工業高等専門学校建設環境工学科に赴任
 2002年 福島工業高等専門学校コミュニケーション情報科学助教授
 2010年 福島工業高等専門学校コミュニケーション情報科学教授
 研究分野：都市経済学

「復興計画策定協議会に参加させていただきました。参加された委員の皆さんの熱意に感動し、広野町の想いが強くなりました」
 3月1日に、「広野町復興推進顧問」として委嘱され、復興推進顧問を引き受けた想いを語った。
 芥川氏は、普段は、福島工業高等専門学校で教壇に立つ。研究分野は、都市経済学。福島工業高等専門学校とは、平成22年3月に産学官の連携強化を目的として地域連携協力に関する協定を締結。浅見川の水質調査などでの交流が盛んになり、現在、芥川氏は、広野町の除染アドバイザーも兼務している。

「復興計画策定協議会に参加させていただきます。復興に民間の活力を取り入れ、行政と民間の調整役を担いたい」と意気込む。さらに、町民に向けて「復興は補助金で出来ません。皆さん自身が立ち上がる気持ちを持つことが復興の第一と考えています。皆さんの協力なくしては広野町の復興はありません。」と町民との協働によるまちづくりの必要性を訴える。
 双葉郡の南の玄関口に位置する当町は、現在、原発事故収束の最前線拠点としての役割を担っている。双葉地域の多くの広域行政機能や公益機能が失われている状況の中、双葉地域の再生・復興に期待される当町の役割は大きいと芥川氏は言う。
 「広野町が双葉地方におけるモデルになる必要があると思う。広野が元気になれば双葉郡が元気なる。双葉郡が元気になれば東北、そして日本が元気になる。」と双葉郡全体の復興を訴える。
 復興への課題は多岐に渡り、先行きも不透明ではある。しかし、一歩踏み出し、ふるさとに春を告げるため前に進まなければならない。芥川氏の挑戦はここから始まる。